

ナショナルセンターの位置づけ 障害者の芸術作品を発信する活動 （各地域のモデルとしての機能）

アール・ブリュットの面白さの一つは、それが地域にあるものだということです。そしてアールブリュットは、地域に根ざしながらも、障害福祉の分野にとどまらず世界とつながれる文化活動としての価値観をもつことが最大の強みです。

- ・国の拠点施設として大きなハコモノを1ヶ所設置して、そこにすべてを集中するのではない。
- ・地域に根差した活動をしている地域の美術館や施設を国が弾力性をもって支援（展示空間の増築や専門職員の配置にかかる補助等）する。

ナショナルセンターの位置づけ 求められる各種機能

(1) 美術館機能

- ①アール・ブリュット作品の調査・評価
- ②アール・ブリュット作品の収集・保管・展示

(2) 人材育成機能

- ①作品の評価、発信を行う人材の育成
- ②障害者の芸術活動を支える人材の育成

(3) 交流支援機能

- ①造形活動を支える福祉施設等のネットワーク構築
- ②芸術分野の人材と医療・福祉現場との出会い促進

(4) 相談支援機能

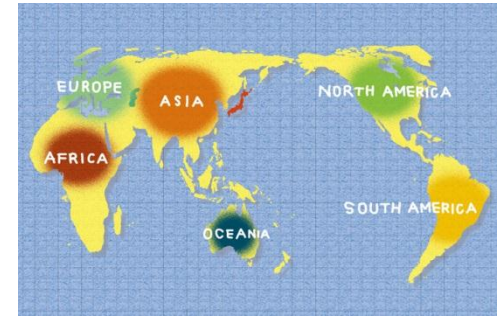
- ①造形活動や展示機会等に関する情報提供
- ②作者の権利に関する情報提供・啓発

障害者の芸術活動への支援を推進する体制のイメージ

ナショナルセンター 機能 A ②障害者の芸術作品等を展示する仕組み



世界との
交 流
情報発信
と収集

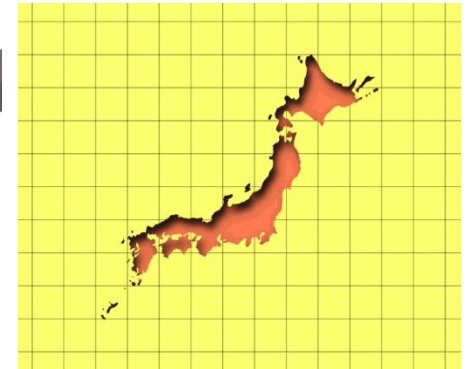


既存の美術館などに併設をして、展示収納を学芸員によるアールブリュットの価値において行う事を支援する。(1)美術館機能 (2)人材育成機能(3)交流支援機能(4)相談支援機能 (1)美術館機能の基本は文化庁行政により、2～4は、障害福祉行政との連携で行う。(1)美術館機能には、新たに専用の収蔵機能を設けることが重要。

ナショナルセンター 機能 B ①障害者、その家族、支援者に対する支援



- (2) 人材育成機能
 - ① 作品の評価、発信を行う人材の育成
 - ② 障害者の芸術活動を支える人材の育成
- (3) 交流支援機能
 - ① 福祉施設等のネットワーク構築
 - ② 芸術分野人材と現場との出会い促進
- (4) 相談支援機能
 - ① 造形活動や展示機会等に関する情報提供
 - ② 作者の権利に関する情報提供・啓発



国内ネットワーク拠点
美術館併設タイプ
アイサ型+の一ま型³

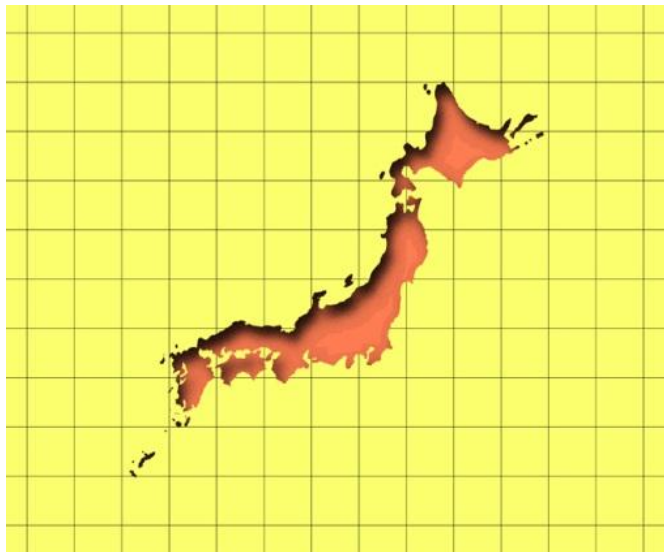
文化庁



厚生労働省

障害者の芸術活動ナショナルセンターのイメージ

全国で3カ所～5カ所
東西 + 中央



全国8ブロック(北海道、東北、
関東甲信越、東海・北陸、近畿、
中国、四国、九州)で1カ所、
もしくは2カ所
ネットワークで支援体制を強化

- ・美術館併設タイプ
展示収蔵をメインとしながらも芸術活動
支援を行う。
- のーま型
身近な立場で展示収蔵をしつつも、芸術
活動支援を行う。
- +
- ・アイサ機能
権利擁護と相談事業を行う

- ・ビックアイ型
障害種別や芸術のジャンルに関わりなく
支援していく
- ・ex エイブルアート・インカーブ等含む。
- ・のーま型
身近な立場で芸術活動・創作支援を行う。
- +
- ・アイサ機能
身近な立場で権利擁護と相談事業を行う

文化庁



厚生労働省